

令和7年8月29日

第9回定例会資料

報告事項 1

第1回徳島県公立高等学校の在り方検討会議 入試制度部会の概要について

徳島県教育委員会教育創生課

第1回徳島県公立高等学校の在り方検討会議入試制度部会の概要について

1 日 時 令和7年8月21日（木） 午前10時から正午まで

2 場 所 徳島県庁 9階 教育委員室（徳島市万代町1丁目1番地）

3 出席者

- (1) 委員 8名中7名出席（欠席1名）
- (2) 県 副教育長、教育次長、教育創生課長 ほか

4 議 題

- (1) 会長・副会長の選出について（会長：金西計英委員、副会長：竹内敏委員）
- (2) 本県公立高等学校入学者選抜の現状について
- (3) 本県公立高等学校入学者選抜制度の改善について
- (4) その他

5 意見交換における主な発言概要

【受検機会に関すること】

- 現行は「育成型選抜・一般選抜・第2次募集選抜」の3回実施で、年明けから3月末までの高校における在校生への教育の質・量の確保や、中学校における進路指導の準備期間から、単純な回数増は困難。
- 通学区域制に関する有識者会議からの「複数回受検」の提言の趣旨は、学区撤廃で選択が広がる中、一般選抜における特定の高校への志願集中による不合格時に再挑戦できる機会の担保である。回数が多い少ないという単純比較ではなく、回数よりも生徒が学びたい高校へ出願できる方式（単願・併願、デジタル併願制など）や複数校選抜の枠組みを含めた検討が必要。
- 学区撤廃により、志願者の動向が大きく変わることも予想されることから、一般選抜に加え、第2次募集選抜についても検討が必要。

【多様な能力を評価する選抜方法に関すること】

- 現行の育成型選抜は「運動部中心」に偏っており、特定の能力をもつ生徒にしか受検機会がないため、中高接続の観点からもより多様な能力を評価でき、より多くの生徒がチャレンジできる仕組みづくりが必要。
- スクール・ポリシーは生徒の高校選択や育成型選抜の募集要件等に直結する重要な方針だが、中学生・保護者には依然としてわかりにくいいため、一層の明確化が必要。

【生徒の多様な受け入れに関すること】

- 調査書に記載すべき項目は、教育機会確保の観点から不登校等を理由に受検生が不利にならないよう、真に必要な事項に精選し、公平で実効的な内容となるよう慎重に検討すべき。
- 保護者や生徒のニーズが多様化する中、学校側の受け入れ体制としては、部活動の専門的な指導を行える人材が不足しているなどで、十分対応し切れていないといえない。

【入学者選抜全般に係る負担に関すること】

- 中学校、高校ともに1月から3月は入試業務と在校生への指導が並行し負担が大きいため、教育の質・量の確保及び業務の効率化・簡素化に向けて、Web出願等の導入の検討が必要。
- 第2次募集選抜における作問等の負担軽減策を検討すべき。

【その他】

- 県内どこに住む中学生でも、学校情報・体験入学等に同等にアクセスできる機会の公平性の確保が必要。
- 志望校決定には学習内容だけでなく、施設・環境も強く影響するため、校舎整備などハード面の充実を図り、施設格差の是正が望まれる。
- 急速な社会の変化の中、目の前の課題だけを穴埋めするような改革ではなく、5年後、10年後の教育の在り方を見据えた入試制度改革であるべき。

第 1 回徳島県公立高等学校の在り方検討会議 入試制度部会

次 第

1 日 時 令和 7 年 8 月 2 1 日（木） 午前 1 0 時から正午まで

2 場 所 県庁 9 階 教育委員室

3 議 題

- （１）会長・副会長の選出について
- （２）本県公立高等学校入学者選抜の現状について
- （３）本県公立高等学校入学者選抜制度の改善について
- （４）その他

4 配付資料

次第（本紙）

会場配席図（本紙裏面）

資料 1 徳島県公立高等学校の在り方検討会議 入試制度部会 設置要綱

資料 2 徳島県公立高等学校の在り方検討会議 入試制度部会 委員一覧

資料 3 昨年度の検討経過

資料 4 本県公立高等学校入学者選抜制度の変遷

資料 5 今後の開催スケジュール（予定）

参考資料 1 徳島県公立高等学校普通科の通学区域制の在り方について＜報告書＞

（令和 7 年 3 月 7 日 通学区域制に関する有識者会議）

参考資料 2 徳島県公立高等学校普通科の通学区域制の見直し方針

（令和 7 年 3 月 13 日 徳島県教育委員会第 20 回定例会）

参考資料 3 平成 16 年度 徳島県公立高等学校入学者選抜について

参考資料 4 平成 23 年度 徳島県公立高等学校入学者選抜について

参考資料 5 令和 5 年度 徳島県公立高等学校入学者選抜について

参考資料 6 令和 8 年度 徳島県公立高等学校生徒募集選抜要項

参考資料 7 令和 8 年度 徳島県公立高等学校入学者選抜生徒募集案内

参考資料 8 令和 8 年度 徳島県公立高等学校入学者選抜について

参考資料 9 徳島教育大綱・徳島県教育振興計画第 4 期

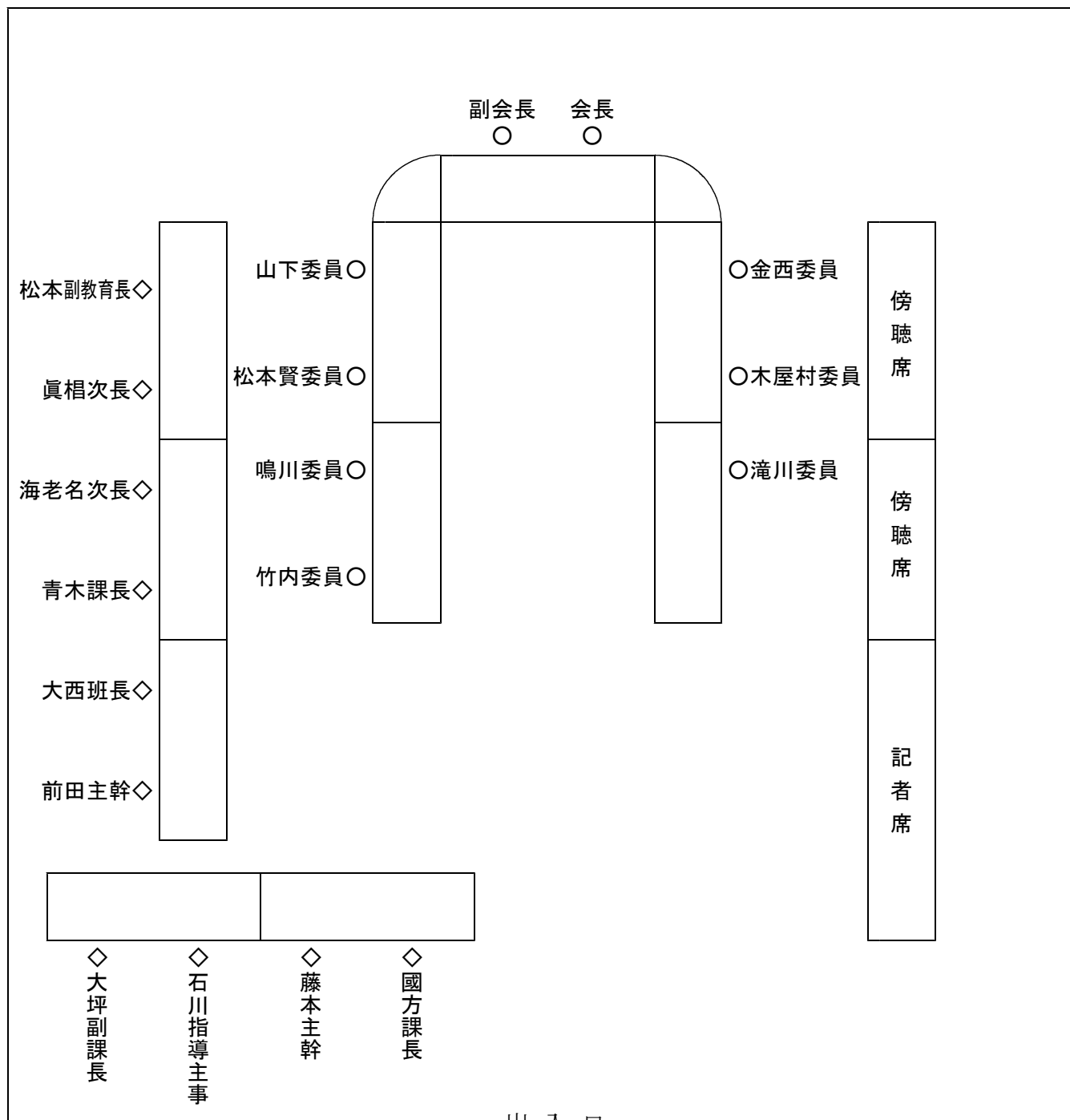
参考資料 10 高校魅力化の方策リーフレット・小冊子

第1回徳島県公立高等学校の在り方検討会議 入試制度部会 会場配席図

日時 令和7年8月21日(木)

午前10時から

会場 県庁9階 教育委員室



徳島県公立高等学校の在り方検討会議 入試制度部会 設置要綱

(設 置)

第1条 徳島県公立高等学校入学者選抜制度の改善について総合的な検討を行い、その改善・充実に資するため、徳島県公立高等学校の在り方検討会議に入試制度部会（以下「部会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 部会は、次に掲げる事項を検討する。なお、検討結果については、徳島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告するものとする。

- (1) 本県公立高等学校入学者選抜制度の改善に関する事項
- (2) その他公立高校入学者選抜に関連して検討が必要な事項

(組 織)

第3条 部会は、10名以内で組織する。

- 2 委員は、有識者、行政関係者及び学校関係者から、教育長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、第2条に掲げる報告が終了するまでとする。
- 4 欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 部会に、会長1人及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、部会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(運 営)

第5条 部会は、会長が招集する。

- 2 部会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。
- 3 会長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。
- 4 部会及び部会の資料は原則公開とする。ただし、部会に諮り、公開を不相当と認めるときは、この限りではない。

(ワーキンググループ)

第6条 部会には、必要に応じてワーキンググループを置くことができる。

- 2 ワーキンググループの構成員は、教育長が委嘱する。

(庶 務)

第7条 庶務は、教育委員会事務局教育創生課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 この要綱は、令和7年7月29日から施行する。

徳島県公立高等学校の在り方検討会議 入試制度部会委員一覧

氏 名	役 職 等
金 西 計 英	徳島大学高等教育研究センター 教授
木屋村 浩 章	徳島県高等学校長協会 管理運営研究委員長 徳島県立城東高等学校 校長
滝 川 尚	徳島県中学校長会 事務局長 徳島市富田中学校 校長
竹 内 敏	鳴門教育大学 客員教授
鳴 川 幸 恵	徳島県立鳴門高等学校 校長
松 本 和 基	吉野川市立鴨島第一中学校 校長
松 本 賢 治	徳島県市町村教育委員会連合会 会長 徳島市教育委員会 教育長
山 下 真 司	株式会社ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所 主席研究員 独立行政法人教職員支援機構(NITS) フェローコーディネータ

※ 50音順 敬称略

昨年度の検討経過

1 通学区域制に関する有識者会議 報告書（令和7年3月）

○入学者選抜（公立高校普通科の通学区域制）に関する提言

○今後の検討を要する事項

（1）通学区域制に関する事項について

- ① 高等学校の募集定員
- ② 入学者選抜制度の改革

通学区域制の撤廃によって、特定の高校への志願者の集中による不合格者の増加や学校間格差の助長などの状況が起こるおそれもあり、中学校での進路指導や生徒の進路選択に影響を与えることから、入学者選抜制度の改善が必要であると考えられる。

県立高校に対する生徒・保護者のニーズは多様化していることから、県立高校は、様々な特色を有する自校のスクール・ミッションやスクール・ポリシーを一層明確にした上で、正確かつ効果的に伝えることが重要である。入学者選抜制度はこれらを反映し、中学生が自身の「得意分野」、「興味・関心」及び「将来の進路先」等を考えて、将来の自己実現につながる志望校を主体的に選択できるようにすることが望まれる。併せて、複数回の受検が可能になるよう、入試制度を見直すことも求められる。

③ 遠距離通学

（2）公立高校の在り方の方向性に関する意見

- ① 普通科高校の適正配置や再編統合など公立高校の在り方について、検討委員会において議論し、方針を示すことが必要
- ② 県西部・県南部の拠点校を定め、新校舎を整備するなど教育環境の公平性を担保することが必要
- ③ 地元自治体をはじめ、多様な主体とともに各高校のさらなる特色化・魅力化を進めることが必要

2 徳島県公立高等学校普通科の通学区域制の見直し方針（令和7年3月13日）

○通学区域制の変更

令和11年度入学者選抜から、県立高校普通科の通学区域を県内全域とする。

○学区外からの合格者数の上限を定める流入率の変更

（1）令和8年度入学者選抜

第1学区については、20%から22%に、第2学区については、12%から14%に、第3学区の「城南高校、城北高校、徳島北高校」については、12%から14%にそれぞれ引き上げる。

（2）令和9年度、令和10年度入学者選抜

流入率引上げ後の選抜結果等を勘案し、各年度の徳島県公立高等学校入学者選抜基本方針において決定する。

【留意事項】

- ・大きな混乱を招くことがないよう、生徒、保護者及び学校等に対し、十分な周知を図る。
- ・徳島市立高校については、徳島市が主体的に検討と判断を行い、各年度の徳島県公立高等学校入学者選抜基本方針において決定する。

本県公立高等学校入学者選抜制度の変遷

これまでの本県公立高等学校入学者選抜制度の改善について……………	1
主な入学者選抜制度改善の概要について……………	2
1 昭和47年度～平成15年度入試	
2 平成16年度～平成22年度入試（前期選抜・後期選抜）	
3 平成23年度～令和4年度入試（特色選抜・一般選抜）	
4 令和5年度入試～（育成型選抜・一般選抜）	
現行の入試制度の実施概要について（令和7年度入学者選抜）……………	6

これまでの本県公立高等学校入学者選抜制度の主な改善について

昭和46年度まで 2学区制（甲学区：県南部、乙学区：県北部、徳島市は共通学区）

◎昭和47年度	総合選抜制度を開始（城東高校、城南高校、城北高校、徳島市立高校） 3学区制の導入（丙学区：徳島市を設置） 重複区域の指定（佐那河内村、松茂町、北島町、藍住町） 流入率の設定（丙学区のみ：20%） ※ 昭和51年度（15%）、昭和53年度（13%）、昭和55年度（12%）、昭和57年度（8%）
昭和51年度	重複区域に神山町を追加
昭和54年度	自営者養成に関する学科に推薦入学制度を導入
昭和55年度	総合選抜校に城ノ内高校を追加
昭和63年度	全日制課程のすべての学校・学科に推薦入学制度を拡充
平成9年度	総合選抜校に徳島北高校を追加 職業学科及び総合学科において、学力検査の特定教科に傾斜配点を導入
平成10年度	全学科において、学力検査の特定教科に傾斜配点を導入
平成12年度	特別な事情により欠席が多い受検生について自己申告書・副申書を導入
◎平成16年度	推薦制度、総合選抜制度の廃止、傾斜配点を廃止 前期選抜、後期選抜の導入、第2次募集における定員留保（8校16名） 前期選抜は学校独自問題を課す、流入率の設定及び変更 （第1学区、第2学区は8%、第3学区は高校ごとに8%） ※学区の名称を、甲乙丙から第1～第3に変更
平成19年度	前期選抜に出願要件ウ（競技力向上スポーツ指定校における指定競技の活動面を重視）を追加、第2次募集における定員留保制度の廃止 流入率の変更（第1学区のみ8% → 10%）
◎平成23年度	前期選抜、後期選抜の廃止 特色選抜、一般選抜の導入 特色選抜に県教育委員会作成の5教科から出題する学力検査を課す
令和2年度	流入率の変更（第1学区：15%、第2学区：10%、 第3学区：城東 12%、城南・城北・徳島北 10%、徳島市立 8%）
令和3年度	流入率の変更（第1学区：20%、第2学区：12%、 第3学区：城南・城北・徳島北 12%、徳島市立 8%） 城東高校の通学区域を県内全域 城ノ内高校の生徒募集停止（中等教育学校に移行のため）
◎令和5年度	特色選抜の廃止 育成型選抜の導入（一般選抜は継続） 一般選抜における学力検査に傾斜配点の導入を可能とする
令和8年度	流入率の変更（第1学区：22%、第2学区：14%、 第3学区：城南・城北・徳島北 14%、徳島市立 8%）

（注）年度は入試年度を表し、流入率はそれぞれ記載の率以内を表す

主な入学者選抜制度改善の概要について

1 昭和47年度～平成15年度入試

推薦入試	実施時期 2月初旬 出願要件 推薦Ⅰ（総合学科を除く推薦） ①推薦：すべての学習活動で優秀な成果をあげている。 ②推薦：芸術・文化、体育・スポーツ、ボランティア、人権、その他の活動のうちいずれかで顕著な実績をあげ、かつ中学校におけるすべての学習活動が良好である。 推薦Ⅱ（総合学科推薦） 入学者数 推薦Ⅰ（総合学科を除く推薦） ①推薦・・・10％以内 ②推薦・・・若干名（普通科・理数科・芸術科）、15％以内（職業学科） 推薦Ⅱ（総合学科推薦）・・・35％以内 選抜資料 調査書、推薦書、面接 （上記記載はH15入試時点のもの）
一般入試	実施時期 3月上旬～中旬 選抜資料 調査書、学力検査（5教科、2教科まで2倍を超えない範囲で傾斜配点できる） 面接、適性検査（芸術科） （傾斜配点はH9より）
第2次募集	実施時期 3月下旬 実施校 合格者が募集定員に満たない学科 選抜資料 調査書、作文、面接、適性検査（芸術科）

文部事務次官通知(H5. 2. 22)より

- ・入学者選抜は、各高等学校・学科等の特色に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を判定して行うものとする。
- ・高等学校入学者選抜の在り方は、各学校・学科・コースごとの特色に応じて多様であることが望ましいこと。
- ・さらに、同一の学校・学科等の中でも入学定員を区分して複数の尺度に基づく異なる選抜方法を実施することにも配慮すること。
- ・このため、例えば、各学校・学科等ごとに、あるいは定員の一部分ごとに、学力検査の実施教科や教科ごとの配点を変えたり、調査書と学力検査の成績の比重の置き方を変えたり、調査書の中の重視する部分を変えたりすることなどが考えられること。
- ・受験機会の複数化及び推薦入試の活用などにより、多段階にわたり入学者選抜が実施されるよう十分配慮すること。
- ・推薦入学の実施時期については、中学校教育に悪影響を及ぼさず、また中学校における教育活動の成果を十分評価できる時期とすること。

文部省初等中等教育局長通知(H9. 11. 28)より

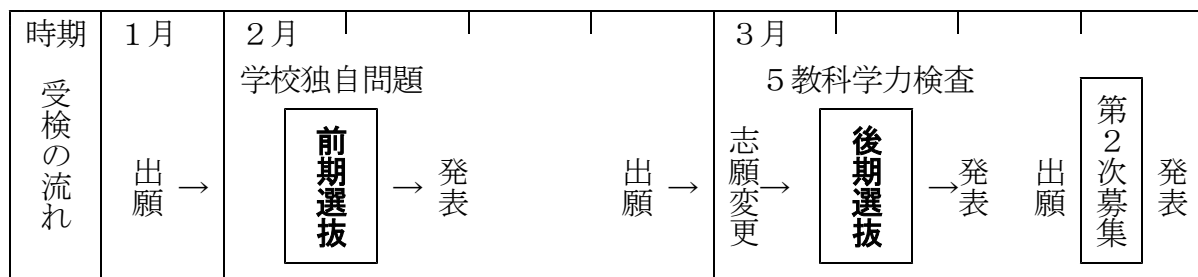
- ・いかに自校にふさわしい者を選抜するか。
- ・多様な能力・適性や意欲・関心を持つ生徒が、いかに自分に合った進路を的確に選択できるようにするか。



2 平成16年度～平成22年度入試（前期選抜・後期選抜）

□基本理念（目的・方針）

- | | |
|---|---------------------------------------|
| ☐ 生徒の主体的な進路選択 | ☐ 学校選択の機会の拡充 |
| ☐ 多様な能力・適性、努力の成果などの多面的評価 | ☐ 特色ある学校づくりの推進 |



前期選抜	実施時期	2月上旬
	出願要件	ア：学科の教育内容における学習活動面を重視 イ：芸術・文化、体育・スポーツ、ボランティア、人権、その他の活動面を重視 ウ：競技力向上スポーツ指定校における指定競技の活動面を重視（要件ウはH19より）
	募集人員	普通科・・・15～30％ 専門・総合学科・・・15～50％（H19より芸術科は15～100％）
	選抜資料	調査書、学校独自：学校指定教科の検査（総合問題又は2教科まで） 作文、面接、自己表現、実技検査、活動の記録
後期選抜	実施時期	3月上旬～中旬
	募集人員	募集定員から前期選抜及び連携型選抜の合格者数を減じた人数
	志願変更	出願の状況をみて、1回に限り出願高校、学科を変更可能
	選抜資料	調査書、学力検査（5教科）、面接、学校独自：実技検査
第2次募集	実施時期	3月下旬
	実施校	合格者が募集定員に満たない学科
	選抜資料	調査書、作文、面接、学校独自：学校指定教科の検査、実技検査
	※2次募集で定員留保（特定の高校に定員を割当、H16～H18入試で実施）を設定	

※連携型中高一貫教育に係る入学者選抜は、前期選抜と同時期に実施

■課題

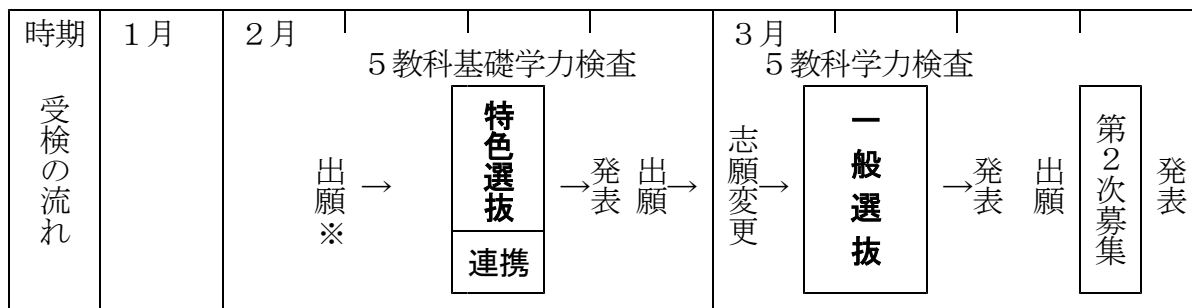
- 学習活動への影響：前期選抜の教科数が少ないことや実施時期が早いこと
- 教育活動への影響：3学期が出願や受検の準備に費やされること
- 学校生活への影響：前期選抜合格者と不合格者が混在した状況になること
- 生徒の心理的負担：多くの生徒が前期選抜と後期選抜で同じ高校を2回受検



3 平成23年度～令和4年度入試（特色選抜・一般選抜）

□基本理念（目的・方針）

□「確かな学力」を重視する入学者選抜 □「生徒の個性」を生かす入学者選抜



※平成25年度入試から出願受付を1月下旬に変更

特色選抜	実施時期	2月のできるだけ遅い時期に実施
	出願要件	スポーツ、文化活動、その他高校が定める特色ある活動について、高校ごとに出願要件を示す
	募集人員	普通科は募集定員の6%以内、 専門学科及び総合学科は募集定員の13%以内 ただし、この募集人員の計が8人未満になる高校は8人以内 競技力向上スポーツ指定校は、指定競技の募集人員を別に定める
	選抜資料	（必須資料） 調査書、特色選抜学力検査（5教科から出題）、活動記録 （選択資料） 作文、面接、実技等
一般選抜	実施時期	3月上旬
	募集人員	募集定員から特色選抜及び連携型選抜の合格者数を減じた人数
	志願変更	出願の状況をみて、1回に限り出願高校、学科を変更可能
	選抜資料	（必須資料） 調査書、一般選抜学力検査（5教科で実施）、面接 （選択資料） 各高校の判断で、実技検査を実施
第2次募集	実施時期	3月下旬
	実施校	合格者が募集定員に満たない学科で実施
	選抜資料	（必須資料） 調査書、作文、面接 （選択資料） 学校指定教科の検査、実技検査から各高校の判断

※連携型中高一貫教育に係る入学者選抜は、前期選抜と同時期に実施

※令和2年度入試から、第2次募集→第2次募集選抜と名称変更

■課題

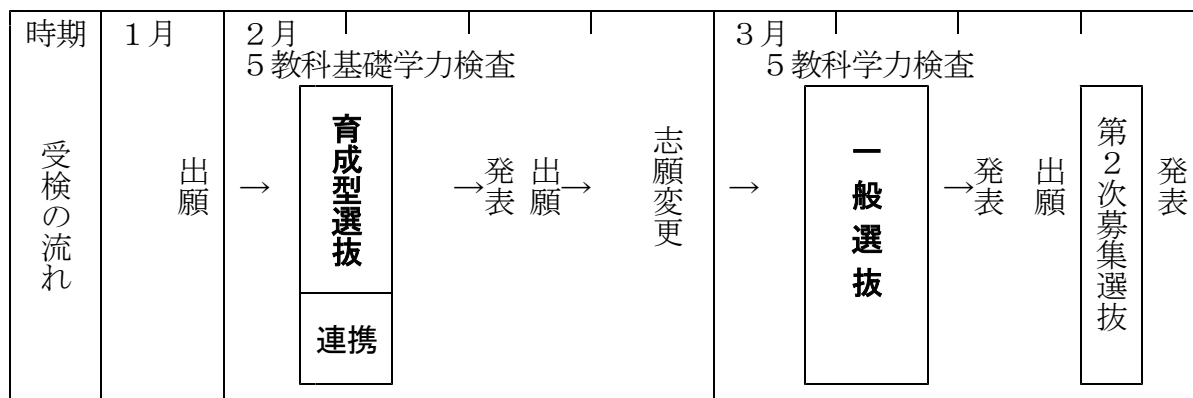
- 募集する種目や分野は、運動系が多く、文化系が極めて少ない
- 有力選手が各高校に分散（県外へも流出）している現状がある
- 募集する運動系の競技・人数には、偏りが見られる
- 作成した各高校スクール・ポリシーの入学者選抜への反映



4 令和5年度入試～（育成型選抜・一般選抜） 現制度

□入学者選抜のポイント

- これまでの特色選抜に替わり、育成型選抜（活動重視枠、実績重視枠）を始める
- 育成型選抜では、運動分野のほか、文化分野や各高校のスクール・ポリシーに関連した分野で募集
- 一般選抜の学力検査では、各高校が教科の傾斜配点を導入可能



■課題

1 【再掲】 通学区域制に関する有識者会議 報告書（令和7年3月）

- 入学者選抜（公立高校普通科の通学区域制）に関する提言
- 今後の検討を要する事項

② 入学者選抜制度の改革

通学区域制の撤廃によって、特定の高校への志願者の集中による不合格者の増加や学校間格差の助長などの状況が起こるおそれもあり、中学校での進路指導や生徒の進路選択に影響を与えることから、入学者選抜制度の改善が必要であると考えられる。

県立高校に対する生徒・保護者のニーズは多様化していることから、県立高校は、様々な特色を有する自校のスクール・ミッションやスクール・ポリシーを一層明確にした上で、正確かつ効果的に伝えることが重要である。入学者選抜制度はこれらを反映し、中学生が自身の「得意分野」、「興味・関心」及び「将来の進路先」等を考えて、将来の自己実現につながる志望校を主体的に選択できるようにすることが望まれる。併せて、複数回の受検が可能になるよう、入試制度を見直すことも求められる。

2 中学校及び高等学校からの意見聴取で挙げられた徳島県公立高等学校入学者選抜に係る主な課題

- 育成型選抜の在り方
- 調査書の記載内容の見直し
- 第2次募集選抜の在り方
- 入学者選抜全般に係る負担（日程、出願、志願変更など）等

3 通知

「高等学校入学者選抜等における配慮事項等について」（令和7年6月27日付け7文科初第836号通知より抜粋）

3. 調査書の活用等における留意事項について

（中略）

なお、公立高等学校入学者選抜の調査書の記載事項については「高等学校入学者選抜について」（平成5年2月22日付け文初高第243号文部事務次官通知）において、「高等学校入学者選抜の資料として、真に必要な事項に精選すること。」とされています。調査書は、高等学校入学者選抜に用いることのできる資料のひとつであることを十分に踏まえ、今後の調査書の検討に当たっては、入学者選抜の実施に真に必要な事項に見直しを図っていただきますようお願いいたします。

7. その他御配慮いただきたいことについて

（1）デジタル技術の活用等、入学志願者の利便性の向上や実施者及び教職員の負担軽減に資する取組は、各実施者の実情に応じて、更なる推進をお願いします。その際、実施に当たっては、入学志願者に不利益が生じないことが前提であることに、十分に留意いただいた上で、取組を進めていただくようお願いします。

（中略）

（6）不登校生徒の中には、教育支援センター等の公的機関やフリースクール等の民間施設等の学校外の機関や自宅等において懸命に学習を続けている者もあり、高等学校入学者選抜等においては、学ぶ意欲や能力を有する生徒について、その多様な学びの場における日頃の努力を適切に評価することが望まれます。不登校経験のある生徒の教育機会の確保の観点からも、在籍する学校における出席の状況のみをもって不利益な取扱い（例えば、欠席日数のみをもって出願を制限するなど）をしないようにするとともに、「高等学校入学者選抜の改善等に関する状況調査（公立高等学校）」等の例も参照しながら、生徒の自己申告書や学校以外の場合（家庭におけるオンライン学習を含む。）における学習状況に係る資料等を選抜において適切に勘案したり、不登校生徒が志願しやすいように募集時の内容を工夫したりするなど、配慮を行うことが望まれます。

現行の入試制度の実施概要について（令和7年度入学者選抜）

1 入学者選抜関係日程

1 月			2 月			3 月		
日	曜	事 項	日	曜	事 項	日	曜	事 項
1	水		1	土		1	土	
2	木		2	日		2	日	
3	金		3	月		3	月	
4	土		4	火	育成型選抜 連携型選抜	4	火	一般選抜(学力検査)
5	日		5	水		5	水	一般選抜(面接等)
6	月		6	木		6	木	
7	火		7	金		7	金	
8	水		8	土	育成型選抜結果通知 連携型選抜結果通知	8	土	
9	木		9	日		9	日	
10	金		10	月	一般選抜募集人員公表	10	月	
11	土		11	火		11	火	追検査、追面接
12	日		12	水		12	水	
13	月		13	木		13	木	
14	火		14	金		14	金	一般選抜結果通知 第2次募集選抜募集人員公表
15	水		15	土		15	土	
16	木		16	日		16	日	
17	金		17	月		17	月	
18	土		18	火	一般選抜願書受付	18	火	
19	日		19	水		19	水	第2次募集選抜願書受付
20	月		20	木		20	木	
21	火		21	金		21	金	
22	水	育成型選抜願書受付 連携型選抜願書受付	22	土		22	土	
23	木		23	日		23	日	
24	金		24	月		24	月	
25	土		25	火	一般選抜志願変更	25	火	第2次募集選抜
26	日		26	水		26	水	第2次募集選抜結果通知
27	月		27	木		27	木	
28	火		28	金		28	金	
29	水					29	土	
30	木					30	日	
31	金					31	月	

2 各選抜の概要

(1) 育成型選抜

日程	願 書 受 付 期 間：令和7年1月22日(水)から1月23日(木)まで 検 査 日：令和7年2月4日(火) 選抜結果の通知日：令和7年2月8日(土)									
実施校	全ての全日制高等学校で実施し、活動重視枠、実績重視枠で募集する。									
出願要件	スクール・ポリシーを踏まえ、スポーツ、文化活動、その他高等学校が定める特色ある活動について、高等学校ごとに出願要件を示す。									
出願制限	・2以上の高等学校に出願することはできない。 ・志願先高等学校にある当該選抜を実施する学科を、志望順に記して出願することができる。ただし、体育科と総合学科、又は、普通科と芸術科を、それぞれ志望順に記して出願することはできない。									
募集人員	次に示す範囲内で、高等学校ごとに示す。 ① 普通科は、募集定員の7%以内とする。 ② 専門学科（体育科及び芸術科を除く。）及び総合学科は、募集定員の14%以内とする。 ③ ①②による募集人員の計が8人未満になる高等学校は、8人以内とする。ただし、県外から志願する者の合格者数が「人数制限なし」の高等学校は、12人以内とする。 ④ 体育科及び芸術科の募集人員は、募集定員の100%とする。 ⑤ 県教育委員会が定める指定校は、指定競技及び指定分野の募集人員を別に定める。									
選抜資料	次に示す必須資料については全ての高等学校において実施することとし、選択資料については、高等学校ごとに実施することができる。 ① 必須資料 ア 調査書 イ 学力検査 ウ 活動記録 エ 実技等（実績重視枠のみ） ※学力検査は、県内同一問題で行う。 <table><tr><td>検 査</td><td>出題教科（配点）</td><td>時刻</td></tr><tr><td>検査Ⅰ</td><td>国語（40）、社会（40）、英語（20）</td><td>9:30～10:20(50分間)</td></tr><tr><td>検査Ⅱ</td><td>数学（40）、理科（40）、英語（20）</td><td>10:40～11:30(50分間)</td></tr></table> ② 選択資料 ア 面接（個人面接）イ 実技等（活動重視枠のみ） ※活動重視枠はア、イのうち少なくとも一つを実施。	検 査	出題教科（配点）	時刻	検査Ⅰ	国語（40）、社会（40）、英語（20）	9:30～10:20(50分間)	検査Ⅱ	数学（40）、理科（40）、英語（20）	10:40～11:30(50分間)
検 査	出題教科（配点）	時刻								
検査Ⅰ	国語（40）、社会（40）、英語（20）	9:30～10:20(50分間)								
検査Ⅱ	数学（40）、理科（40）、英語（20）	10:40～11:30(50分間)								
選抜方法	スクール・ポリシー及び出願要件を踏まえ、調査書、活動記録及び学力検査の成績並びに各高等学校において実施した検査の結果を資料として、当該高等学校・学科等の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜する。									
通学区域	① 城東高等学校、富岡東高等学校及び川島高等学校を除く普通科の通学区域は3通学区域とする。 通学区域外志願者の合格者数は、第1学区は各学区内総募集定員の3%以内、第2学区は総募集定員の2%以内、第3学区は高等学校ごとに募集定員の2%以内とする。ただし、県教育委員会が定める指定校における指定競技及び指定分野による通学区域外からの合格者については、この制限を適用しない。 ② 城東高等学校、富岡東高等学校及び川島高等学校並びに専門学科及び総合学科の通学区域は、県内全域とする。									

(2) 一般選抜

日程	願 書 受 付 期 間：令和7年2月18日(火)から2月19日(水)まで 志願変更受付期間：令和7年2月25日(火)から2月27日(木)まで 学 力 検 査：令和7年3月 4日(火) 面 接 等：令和7年3月 5日(水) 追 検 査・追面接：令和7年3月11日(火) 選抜結果の通知日：令和7年3月14日(金)
実施校	全ての高等学校
出願資格	育成型選抜又は連携型選抜においていずれの高等学校にも合格していない者
出願制限	・2以上の高等学校に出願することはできない。 ・志願先高等学校にある一般選抜を実施する学科を、志望順に記して出願することができる。ただし、芸術科は、芸術科(音楽)、芸術科(美術)、芸術科(書道)から2以上を志望順に記して出願することはできない。 ・体育科は、育成型選抜において募集する種目(専攻実技種目)で、入学後も学業と両立させ、その活動を意欲的に継続できる者に限り出願することができる。
募集人員	募集定員から育成型選抜及び連携型選抜の合格者数等を減じた人数
志願変更	志願者は、1回に限り志願変更を行うことができる。
選抜資料	全ての高等学校・学科において、調査書、学力検査、面接を用いることとし、学科の特色に応じ、実技検査を用いることができる。 ① 学力検査 学力検査は国語、社会、数学、理科、英語の5教科を実施する。 各高等学校は、スクール・ポリシーに基づいた傾斜配点を採用することができる。 ② 面接 個人面接、集団面接のいずれかを実施する。
選抜方法	スクール・ポリシーを踏まえ、調査書と学力検査の成績に基づき、面接の結果並びに体育科及び芸術科については活動記録及び実技検査も資料として、当該高等学校・学科等の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜する。
通学区域	① 城東高等学校、富岡東高等学校及び川島高等学校を除く普通科の通学区域は3通学区域とする。 通学区域外志願者の合格者数は育成型選抜の入学予定者数と合わせ、第1学区は学区内総募集定員の20%以内、第2学区は12%以内とし、第3学区は高等学校ごとに、城南高等学校、城北高等学校、徳島北高等学校は12%以内、徳島市立高等学校は8%以内とする。 ② 城東高等学校、富岡東高等学校及び川島高等学校並びに専門学科及び総合学科の通学区域は、県内全域とする。

(3) 第2次募集選抜

日程	願 書 受 付 期 間：令和7年3月19日(水) 検 査 日：令和7年3月25日(火) 選抜結果の通知日：令和7年3月26日(水)
実施校	育成型選抜、連携型選抜及び一般選抜の結果、合格者が募集定員に満たない学科で実施する。
出願資格	育成型選抜、連携型選抜又は一般選抜においていずれの高等学校にも合格していない者
出願制限	・2以上の高等学校に出願することはできない。 ・志願先高等学校にある第2次募集選抜を実施する学科を、志望順に記して出願することができる。ただし、芸術科は、芸術科（音楽）、芸術科（美術）、芸術科（書道）から2以上を志望順に記して出願することはできない。 ・体育科は、育成型選抜において募集する種目（専攻実技種目）で、入学後も学業と両立させ、その活動を意欲的に継続できる者に限り出願することができる。
募集人員	募集定員から育成型選抜、連携型選抜及び一般選抜の合格者数等を減じた人数
検査内容	志願者全員に対して、作文及び面接(個人面接又は集団面接)を実施する。高等学校の判断により学校指定教科の検査、実技検査を行うことができる。
選抜方法	スクール・ポリシーを踏まえ、調査書、作文、面接の結果及び各高等学校において実施した検査の結果並びに体育科及び芸術科については活動記録を資料として、当該高等学校・学科の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜する。
通学区域	通学区域は県内全域とする。

(4) 連携型選抜

実施時期	育成型選抜と同時期に実施する。				
実施校	連携型中高一貫教育を実施する高等学校 <table> <tr> <td>那賀高等学校</td><td>鷲敷、相生、木頭の3中学校</td></tr> <tr> <td>阿波西高等学校</td><td>市場、阿波の2中学校</td></tr> </table>	那賀高等学校	鷲敷、相生、木頭の3中学校	阿波西高等学校	市場、阿波の2中学校
那賀高等学校	鷲敷、相生、木頭の3中学校				
阿波西高等学校	市場、阿波の2中学校				
出願資格	それぞれの連携型中学校を卒業見込の者				
募集人員	別に定める。				
検査内容	学力検査、面接を実施する。				
選抜方法	スクール・ポリシーを踏まえ、必須資料及び選択資料による成績等を資料とし、当該高等学校・学科の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜する。				

3 育成型選抜・連携型選抜の実施結果

(1) 育成型選抜

	募集人員	最終出願者数 A	合格者数 B	不合格者数	実質倍率 A/B
活動重視枠	4 5 6	4 9 6	3 8 8	1 0 8	1.28
実績重視枠	2 9 4	2 6 0	2 2 3	3 7	1.17
合 計	7 5 0	7 5 6	6 1 1	1 4 5	1.24

(2) 連携型選抜

	募集人員	最終出願者数 A	合格者数 B	不合格者数	実質倍率 A/B
那賀高校	3 9	1 2	1 2	0	1.00
阿波西高校	2 9	2 7	2 7	0	1.00
合 計	6 8	3 9	3 9	0	1.00

※募集人員は、那賀高校は2つの学科をあわせた総募集定員(65名)の60%程度、阿波西高校は募集定員(45名)の65%程度としている。

4 一般選抜の実施結果

(1) 募集人員、出願者数、受検者数等

	募集人員 A	出願者数 (2月27日)	最終出願者数 B	欠席者数	倍率 B/A
全日制課程	4 1 0 2	4 0 6 2	4 0 5 8	0	0.99
定時制課程	2 1 0	1 3 6	1 3 4	0	0.64
合 計	4 3 1 2	4 1 9 8	4 1 9 2	0	0.97

(2) 合格者数、不合格者数、実質倍率等

	最終出願者数 B	合格者数 C	不合格者数	実質倍率 B/C
全日制課程	4 0 5 8	3 9 3 7	1 2 1	1.03
定時制課程	1 3 4	1 2 7	7	1.06
合 計	4 1 9 2	4 0 6 4	1 2 8	1.03

5 第2次募集選抜の実施結果

	第2次募集選抜人員	最終出願者数 A	合格者数 B	不合格者数	実質倍率 A/B
全日制課程	1 6 5	7 5	6 5	1 0	1.15
定時制課程	8 3	6	3	3	2.00
合 計	2 4 8	8 1	6 8	1 3	1.19

6 育成型選抜・一般選抜・第2次募集選抜の出願状況及び出願倍率等

【全日制】

学 校	学 科 又 は 類	募集 定員	育成型 人員	育成型 出願	育成型 倍率	一般 人員	一般 出願	一般 倍率	2次 人員	2次 出願	2次 倍率	欠員
城 東	普 通	280	31	34	1.10	251	256	1.02				
城 南	普 通	240	38	29	0.79	215	227	1.06				
	応用数理	30		1		29	22	0.76				
城 北	普 通	240	26	27	1.12	218	237	1.09				
	理数科学	30		2		28	23	0.82				
徳 島 北	普 通	220	18	17	2.06	205	225	1.10				
	国際英語	40		20		37	38	1.03				
徳島市立	普 通	260	32	40	1.25	228	246	1.08				
	理 数	40				40	40	1.00	2	1	0.50	2
城 西	本 校	生産技術	20	5	1.26	17	19	1.12				
		植物活用	20	0		20	24	1.20				
		食品科学	25	0		25	26	1.04				
		アグリビジネス	25	2		24	23	0.96	3	2	0.67	2
		総 合	70	17		61	59	0.97	3	2	0.67	2
	神 山	地域創生類	30	5	0.80	28	18	0.64	11	3	0.27	10
徳島 科学技術	総合科学類	60	62	11	1.06	54	52	0.96	2	1	0.50	1
	機械技術類	70		17		55	52	0.95	3	4	1.33	0
	電気技術類	60		5		56	46	0.82	10	12	1.20	0
	建設技術類	80		23		64	61	0.95	3	4	1.33	0
	海洋科学類	10		1		8	6	0.75	2	2	1.00	0
	海洋技術類	20		9		17	15	0.88	3	2	0.67	0
徳島商業	ビジネス探究	60	36	3	1.11	57	45	0.79	7	6	0.86	1
	ビジネス創造	180		37		150	157	1.05				
小 松 島	普 通	160	15	11	0.73	150	153	1.02				
小松島 西	本 校	商 業	50	14	1.26	39	41	1.05				
		食 物	70	15		65	63	0.97	4	2	0.50	2
		生活文化	20	2		18	20	1.11				
		福 祉	30	3		28	22	0.79	7	3	0.43	5
	勝 浦	応用生産	15	7	0.60	9	7	0.78	3	0	0.00	3
		園芸福祉	15	2		14	7	0.50	9	2	0.22	7
富岡 東	本 校	普 通	145	10	1.05	73	65	0.89	8	7	0.88	1
		商 業	30	10		21	21	1.00	2	2	1.00	0
		(併設)		64								
	羽ノ浦	看 護	40	8	1.50	32	32	1.00	2	1	0.50	1
富岡西	普 通	155	15	12	0.80	144	160	1.11				
	理 数	30				30	19	0.63				
阿南光	機械ロボットシステム	30	39	9	0.85	21	21	1.00				
	電気情報システム	25		1		24	21	0.88	3	1	0.33	2
	都市環境システム	25		2		23	19	0.83	2	2	1.00	0
	産業創造	85		21		65	67	1.03				
那 賀	普 通	45	21	9	0.52	26	26	1.00	2	0	0.00	2
	森林クリエイト	20		2		17	19	1.12				
	(連携)普通		39	10								
	(連携)森クリ			2								
海 部	普 通	60	17	15	1.29	48	41	0.85	7	1	0.14	6
	情報ビジネス	20		4		17	14	0.82	3	0	0.00	3
	数理科学	30		3		28	22	0.79	6	0	0.00	6

【全日制】

学 校		学 科 又 は 類	募集 定員	育成型 人員	育成型 出願	育成型 倍率	一般 人員	一般 出願	一般 倍率	2次 人員	2次 出願	2次 倍率	欠員	
鳴 門		普 通	245	20	24	1.20	227	238	1.05					
鳴門渦潮		スポーツ科学	60	60	64	1.07	0	-	-					
		総 合 学 科	120	16	16	1.00	106	108	1.02					
板 野		普 通	125	8	7	0.88	118	120	1.02					
名 西		普 通	65	11	11	1.00	55	53	0.96	2	2	1.00	0	
		芸 術	音 楽	15	15	9	0.60	6	1	0.17	5	1	0.20	4
			美 術	20	20	25	1.25	0	-	-				
			書 道	10	10	13	1.30	0	-	-				
吉野川		農業科学	15	17	6	0.59	9	10	1.11					
		生物活用	15		0		15	18	1.20					
		会計ビジネス	20		0		20	18	0.90					
		情報ビジネス	25		4		21	21	1.00					
		食ビジネス	25		0		25	25	1.00					
川 島		普 通	110	8	11	1.38	68	69	1.01					
		(併 設)		34	34									
阿 波		普 通	130	14	13	0.93	117	117	1.00					
阿 波 西		普 通	45	8	0	0.00	18	15	0.83	3	0	0.00	3	
		(連 携)		29	27									
穴 吹		普 通	45	8	7	0.88	39	35	0.90	4	1	0.25	4	
脇 町		普 通	165	17	18	1.06	149	150	1.01					
つ る ぎ		電 気	40	27	6	1.22	35	33	0.94	2	0	0.00	2	
		機 械	45		14		33	33	1.00					
		建 設	20		6		15	15	1.00					
		商 業	25		1		24	23	0.96	1	1	1.00	1	
		地域ビジネス	20		6		16	16	1.00					
池 田	本校	普 通	120	22	17	0.77	103	78	0.76	25	5	0.20	20	
		探 究	35		0		35	28	0.80	7	4	0.57	3	
	辻	総 合	45	20	11	0.55	34	30	0.88	4	0	0.00	4	
	三好	食農科学	20	6	0	0.00	20	19	0.95	2	0	0.00	2	
		環境資源	15		0		15	12	0.80	3	1	0.33	3	
公 立 計			4850	750	757	1.01	4102	4062	0.99	165	75	0.45	100	

【定時制】

学 校	学 科 又 は 類	募集 目標	育成型 人員	育成型 出願	育成型 倍率	一般 人員	一般 出願	一般 倍率	2次 人員	2次 出願	2次 倍率	欠員
徳島 科学技術	機械類	20				20	8	0.40	14	2	0.14	14
	工業技術類	20				20	5	0.25	16	0	0.00	16
徳島中央	普通(昼間午前)	60				60	51	0.85	13	2	0.15	12
	普通(昼間午後)	30				30	25	0.83	7	0	0.00	7
	普通(夜間)	20				20	13	0.65	6	0	0.00	6
富 岡 東	普 通	15				15	6	0.40	9	2	0.22	7
鳴 門	普 通	20				20	11	0.55	9	0	0.00	9
名 西	普 通	15				15	14	0.93	2	0	0.00	2
池 田	普 通	10				10	3	0.30	7	0	0.00	7
公 立 計		210				210	136	0.65	83	6	0.07	80

今後の開催スケジュール（予定）

